

令和7年度 学校評価自己評価表

a ミッション	【校訓】「こころひろく ゆめおおきく」 ふるさとに誇りをもち、自分を愛し、夢を語る児童の育成	ビジョン【学校教育目標】自ら学び たくましく生きる【学校経営目標】「やる気」「元氣」「思いやり」で感謝いっぱい せらにしの小学校 【めざす学校像】○一人一人を大切に育てる学校○授業を大切に育てる学校○地域や家庭を大切に育てる学校 【めざす児童像】○自ら考え、自ら学ぶ児童○ふるさとに誇りをもち児童○自らを鍛え、自らを管理する児童 【めざす教職員像】○学校教育目標に向けて協働する教職員○教育のプロとしての自覚と誇りをもち教職員○法を遵守し、公教育の責任を果たす教職員	【育成を目指す資質・能力】 【知識及び技能】知識・技能 【思考力・判断力・表現力等】思考力・判断力・表現力 【学びに向かう力・人間性】主体性・自らへの自信
---------	---	--	--

世羅町立せらにしの小学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策 (取組指標を含む)	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
確かな学力	<p>【授業づくり】 ○主体的・対話的で深い学びができるように、教材分析と単元構成を工夫し、「考える」授業を創造する。</p> <p>【学びのベース】 ○「読み・書き・計算」などの、基礎学力を定着させる。</p> <p>○読書活動を充実させる。</p>	<p>○「授業づくりハンドブック」を活用し、教材分析や単元構成を工夫し、児童が正しく文章を読み取り、自分の考えを形成する授業づくりを行う。</p> <p>○毎日のつばきタイムで、文章の読み取り、語彙調べ、漢字、計算などの学習を継続して行う。</p> <p>○全校読み聞かせ、読書朝会、親子読書等の読書活動を通して、読書に親しむ習慣をつける。</p>	<p>○標準学力調査をもとにした自作問題の、説明的文章を読む問題における正答率</p> <p>○授業づくりにおけるアンケートの肯定的評価の割合(教職員)</p> <p>○漢字テストにおいて、期待正答率もしくは70%以上の児童の割合</p> <p>○せらにしの小計算検定において、該当学年の級を合格する児童の割合</p> <p>○読書が好きだと答える児童の割合</p>	75%	63.3%	71.2%	95%	B	<p>○児童アンケートによる、国語科の学習が好きと答える児童は83.2%と高く、前向きに学習する児童が多い。授業研究や教材分析を重ねることで、文章を正しく読ませるために必要なことを指導者がとらえることもできてきている。読むポイントを明確にすることで、児童に正しく読み取る力が付いている。標準学力調査をもとにした自作問題の結果から、特に「文章の内容を把握すること」の正答率に向上が見られた。一方で、文章を要約したり、論の進め方を考えたりする力には課題が見られる。</p> <p>○毎日のつばきタイムで基礎学力の定着を図った。漢字テストは、目標値を達成することができた。個人の目標を決めたり、反復練習をしたりすることで定着が見られている。計算についても、目標を達成する児童が増えてきているが、時間がかかたり正確にできなかったりする児童も多い。引き続き、基礎的な学力を身に付けさせる必要がある。</p> <p>○読書が好きで児童の割合は、低学年93.3%、中学年89.7%、高学年58.8%であった。図書委員会による読み聞かせや地域の方による読み聞かせ、親子読書の取り組みなどを継続している。また、一年間の中で、他学年に読み聞かせをする時間を確保している。高学年の割合が1学期から16.2%減少した。</p>	○	○	○	<p>・文章を要約するためには筆者の考えを正しく理解することが必要だが、読み取りの力がついてきているので期待できる。</p> <p>・日々の積み重ねの結果がよくできている。</p> <p>・教材分析を通して先生方が手応えを感じていると思う。先生方の学ぶ姿勢が好循環を生むと思う。</p> <p>・説明文を読む取組については、教室内の掲示物や今回の結果からしっかりと進められていると感じる。半面、物語文において、登場人物の気持ちを読み取ったり、その気持ちに自己を重ねたりする豊かな感性の育成はどうかの気になる。</p> <p>・個による格差が出ていないか気になる。個別指導をどう行っていくか考えていってほしい。</p> <p>・単なる計算練習だけではなく、立式の意味も考えさせるとよい。</p> <p>・自分から学習に向かっている子どもの育成が必要になっていくと感じる。</p> <p>・デジタル社会と書かれている中で、読書の時間をもつことは大変意義があると思う。</p>	<p>・2学期に続き、単元に入る前に教材分析を行い、それをもとに単元構成を工夫していく。教材の内容を読み取らせるだけでなく、教材を通して読み方を身に付けさせる授業づくりを行う。さらに、身に付けた読み方を生かして、様々な文章を読ませることで、正しく読む力をつけていく。文章を要約したり、筆者の論の進め方を考えさせる活動を意識的に取り入れ、文章全体を俯瞰して読むことができるようにする。</p> <p>・引き続き、つばきタイムを中心に基礎学力の定着を図る。漢字については、個人の目標を決めさせたり反復練習させたりする。計算検定については、3回挑戦して達成できない場合は違う級に挑戦するなど、児童が意欲をもって取り組み、様々な計算技能を定着させる。必要に応じてつばきタイム以外にも時間を設けて取り組ませる。</p> <p>・図書委員による読み聞かせ朝会や図書イベント、読書朝会は継続して行い、図書への関心を高める。また、各学級で図書室利用の声掛けを行い、本に触れる回数を増やすとともに、短時間でも継続して読書活動に取り組ませ、本に対する抵抗感を減らしていく。</p> <p>・国語科の授業と関連させて並行読書を行わせることで、様々なジャンルの本に親しませる。</p>
豊かな心	<p>○ふるさと学習の推進を行い、せらにしの誇りをもつ児童の育成を行う。</p> <p>○自分から進んであいさつをする習慣を身に付けさせる。</p>	<p>○せらにしのよさをたくさん発見し、せらにしの誇りをもつ児童を育てる。(内容例「せらにしの小 太鼓」「産業」「環境」「福祉」「ゲストティーチャーの招聘」等)</p> <p>○あいさつ大使を中心に呼びかけたり、見本を示したりする。</p>	<p>○道徳アンケート「今住んでいる地域や社会をよりよくするために、何かしてみたいと思う。」と答える児童の割合(児童アンケート)</p> <p>○「せらにしのよさを実感できる取組ができた。」と答える教職員の割合(教職員アンケート)</p> <p>○自分から進んであいさつをしている児童の割合(児童アンケート)</p>	85%	93.5%	94.8%	111%	A	<p>○2学期も、花いっぱいふれあい防災活動や生活科、総合的な学習の時間等でふるさと学習を実施したことで、児童がせらにしのよさを改めて発見することができた。これらにより、今住んでいる地域や社会をよりよくするために何かしたいと思う児童が増えたと考える。</p> <p>○目標値を達成することができた。上記の花いっぱいふれあい防災活動だけではなく、食育プロジェクト、溝上牧場とリンド農園への社会見学、両化八幡神社での秋見つけ、消防署訪問、郵便局訪問、きのこ教室、小国自治センターでのお年寄りとの交流、地域イベントでの太鼓出演など、各学年や学校全体で地域との関わりのある取組が行われていることが成果につながった。</p> <p>○後期のあいさつ大使を任命し、朝会への移動時など挨拶の手本となっている。また、女性会とのあいさつ運動でも挨拶に対する意識を高めることができた。アンケートでは自己評価が高くなっているが、行動が伴っていない児童もいる。レベル4以上のあいさつを目指し、あいさつ大使を中心とした取組を継続していく。</p>	○	○	○	<p>・特設の授業(地域に出たり、ゲストティーチャーを招いたり)だけでなく、日頃から地域とのつながり(自分からあいさつなど)が大切だと思う。その中で、自分たちは地域の人たちに支えられていると感じ、ふるさとへの愛着につながると感じる。</p> <p>・自然豊かなせらにしの地区に誇りをもつてもらい、郷土愛を深めることとはとてもいいことだと思う。</p> <p>・ふるさとへの愛着はだんだん低下していると感じる。地域の行事への子供たちの参加が少ない。言い換えれば、子供たちの保護者の参加が少なくなっている実態がある。そこから考えていく必要がある。各自治センターとの丁寧な連携が必要になる。</p> <p>・あいさつについて、時には先生にアンケートをとって、大人の姿勢を見直すことも大切であると思う。</p>	<p>・ふるさと学習の取組を通して、地域との関わりについて考えることができている。今後も各教科の学習や総合的な学習の時間を中心に、地域のために何ができるかを考えていく。来年度は、フランスの小学校との交流もあるため、せらにしのよさをたくさん発見し、伝えることを通じて、せらにしの誇りをもつ児童を育てていく。</p> <p>・引き続き、せらにしのよさを実感できるよう、取組を進めていく。児童が学習後、手紙等で感謝の気持ちを伝えるだけではなく、地域の方の声をしっかりと児童に返すことで、ふるさと学習の意味が深まるようにしていく。また、6年生が学校の代表として、地域の方々への感謝の会を企画しているため、感謝の会を通して、せらにしのよさを更に実感できることを目指していく。</p> <p>・あいさつ大使のように児童自身が主体的に考え取り組む仕組みを継続するとともに、教職員が積極的にあいさつする姿を見せたり、あいさつすることの意義を指導したりすることで進んであいさつする風土をつくっていく。また、目指すべき挨拶の姿について「あいさつ上手レベル」をもとに教職員・児童ともに再確認していく。</p>
健やかな体	<p>主体的に健康づくりと体力づくりを進める児童を育成する。</p> <p>○外遊びをしっかりと行ったり、体育の時間の充実を図ったりすることで、運動に対する意識を高め、体力の向上を図る。</p>	<p>○全校で体を動かす時間や学年遊びを計画し、体を動かす時間を十分に確保する。</p> <p>○運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好きだと答える児童の割合</p>	<p>○運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好きだと答える児童の割合</p>	80%	88.3%	85.7%	107%	A	<p>○低学年80%、中学年90%、高学年83.9%という結果である。寒い季節に入ったが、防寒をして外に出ている児童の姿をよく見掛ける。また、持久走大会に向けて目標をもち、前向きに練習することが出来ていた。遊ぶ中で他学年との交流も生まれている。</p>	○			<p>・せらにしの教から冬にかけてロードレースや駅伝などが開催され、自然と外に出て走るという習慣がある。この地域をあげての風土を体力づくりにつなげるとよい。</p> <p>・楽しんで体を動かして、運動が苦手な子どもも運動不足解消につながるとよいと思う。</p> <p>・服部杯マラソン大会、世羅西駅伝大会とも多くの児童の参加があった。その中で、保護者の参加も多かった。日頃の運動が結びついていると感じた。地域の大会への参加が、ふるさと学習や地域連携にもつながっていくと思う。</p> <p>・中距離走の運動を続けていくことは大変であるが、今後も継続してほしい。</p>	<p>・各学年が週に一回学年遊びを計画し、運動が苦手な児童が体を動かす時間を作る。また、児童会と連携し、全校外遊びの機会を設けることで児童の体力を高めていく。</p>
信頼される学校づくり	<p>○「せらにしの小 太鼓」の充実と発展</p> <p>○コミュニティ・スクールを充実させる。</p>	<p>○「せらにしの小 太鼓」を学習発表会や地域のイベント等で発表することで、文化を継承する様子や全力でやりきる児童の姿を披露する。</p> <p>○「花いっぱいふれあい防災活動」など地域の方と交流ももてる機会を設定し、地域・保護者と学校がつながる。</p>	<p>○保護者アンケート「児童は、全力でやりきった。」の肯定的回答の割合</p> <p>○保護者・地域アンケート「児童と触れ合うことで、学校のことがよく分かった。」と回答した人の割合</p>	90%	100%	100%	111%	A	<p>○運動会、学習発表会の保護者アンケートは、提出いただいた全員が肯定的評価であった。</p> <p>○少人数でも、一人一人が自信をもって堂々と頑張っているという内容を記入してくださった方が多かった。</p> <p>○全校群読は、迫力があり感動したという高評価をたくさんいただいた。</p> <p>○「せらにしの小 太鼓」は、継承しつつも、その年のカラーが出ており、毎年楽しく見せていただいているという意見をたくさんいただいた。</p> <p>○「花いっぱいふれあい防災活動」では、「活動に参加することで、子供たちの様子が分かりました。」とアンケートをとった。「よく分かった」「分かった」と回答した人が83%、「まあまあ分かった」が17%だった。</p> <p>○地域により様々な意見があった。「子供と触れ合えた」と感じた方がたくさんいた一方「もっと地域の方と子供が交える活動が欲しかった」というご意見もいただいた。</p>	○	○		<p>・学校が地域と連携しをすることは大切にしてほしい視点だが、何もかもを学校が動いては学校職員の業務改善は進まないで、地域に返していく取組が必要なのかもしれない。</p> <p>・学習発表会や運動会等、地域自治センターを通じて広く呼びかけをしたらよいと思う。</p> <p>・地域との活動後、各自センターへの日程、内容等の反省等を丁寧に行ったりすることで、地域の中心機関となっている自治センターとの連携も強化されるのではないかと感じる。</p> <p>・4地区内のうち、小学校がある小国地区、中学校がある黒川地区への関わりは多くなると思う。そこから外れる山福田地区、津名地区へのアプローチも考えていって欲しい。</p> <p>・地域の人材マップを作るため、各家庭、自治センターでの情報収集をしてはどうか。その人材マップを参考に学校活動に活かせるところを見出していくことができないだろうか。</p>	<p>・児童一人一人が自信をもって取組む姿を学校行事等を通して見ていただくことができた。その姿を、学校だよりやホームページ等で発信していった。今後は、運動会や学習発表会に、より多くの地域の方にきていただけるようにしていく。</p> <p>・「せらにしの小 太鼓」を地域の方に見ていただく方法や場の設定について考え、実行していく。そのための年間計画を作成する。</p> <p>・「花いっぱいふれあい防災活動」では、「来年も楽しみます。」とアンケートに記入してくださった方が数名いた。子供たちが地域・保護者の方と触れ合う貴重な場なので、今年度の反省点を学校運営協議会で共有し、よりよいものとしていく。</p>

【自己評価】A: 100% (目標達成) B: 80% (ほぼ達成) < 100% C: 60% (もう少し) < 80% D: (できていない) < 60% □

【学校関係者評価】イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。